

令和3年度事業報告（案）について

I. 事業概要

今年度、当シルバー人材センターでは「自主・自立、共働・共助」の基本理念に基づき、事業計画に沿って各事業に取り組んだ。

しかし、全国的に蔓延したコロナウイルスは、各事業に大きな影響を及ぼした。

会員数は、前年度より23人減少し、581人となった。

請負契約金額は前年度比96.6%と減少し165,044千円となり、派遣契約金額は前年度比99.0%と減少し102,043千円となった。請負契約と派遣契約の合計金額は、前年度比97.5%と減少し267,087千円となった。コロナウイルス感染再拡大により発注者からのキャンセルが相次いだ事も要因のひとつとなっている。

安全就業関係では、年度末に重篤事故が発生し、年間の事故件数も14件となり前年を大幅に上回った。

1. 公益社団法人の円滑な運営

会員拡大に取り組んだが、コロナウイルス感染拡大の影響もあり退会者が増加し、新たな会員確保も難しい状況となった。

市及び国の補助金については、前年度と同一額を確保して頂いた。契約金額の公民比は、前年度が24.7対75.3、令和3年度が28.0対72.0と順調に推移しており、今後も市に対して新規就業の受注や補助金確保に向けた要望を継続する。

会員優待割引制度（フレンドリーショップ）を積極的に展開したことにより、加盟店は60店舗を超え、新規就業先の開拓にもつながった。

2. 会員の増強

令和2年度から入会説明会を随時開催に変更した事で、コロナウイルス感染下においても88名の方に説明会を受けていただいた。

他にも「広報はつらつ」、ホームページ、市広報紙、そして各種イベントを通じて会員確保に努めたが、会員数は前年度に比べて23名減となった。

退会者が増加する中で、会員優待割引制度（フレンドリーショップ）を展開する事により退会者が一定数抑えられた。

3. 普及啓発の推進

市広報紙への掲載、「広報はつらつ」の発行、及び「事務局だより」を毎月発行し、会員への情報提供や一般市民に対しての啓発を行った。

10月には、シルバー環境美化活動を実施し、各地区で積極的に取り組んだ結果、会員127名の参加を得た。また、12月に官庁街や安土町総合支所の除草奉仕活動を実施し、会員151名の参加を得た。これらのボランティア活動は市民へのシルバーに対する理解を深めて頂くことを目的としており、引き続き取り組んで行く。

「三世代いきいきフェスティバル」はコロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

4. 安全・適正就業の推進

令和3年度の事故発生件数は、賠償責任事故件数6件、傷害事故件数6件、車両事故2件と合計14件となり、前年度を大幅に上回った。中でも傷害の重篤事故が多く課題を残すこととなった。事故の主な要因として会員各位の安全意識の低下があげられる。

会員が健康で安全に就業し、地域や発注者から信用信頼を得るために、安全パトロールを危険度の高い就業先である剪定・除草現場を中心に抜き打ちで4回実施した。

5. 就業技術の向上

除草班会員を対象とした刈払機除草作業安全講習会を4月に開催し、41名の参加を得た。また、12月にも刈払機取扱作業安全衛生教育を開催し、20名の参加を得た。

6. 部会活動報告

《総務部会》

総務部会は理事会に提案される案件等について、事前に内容を精査検討し修正を行いながら意見を付して理事会に諮ってきた。新型コロナウイルス感染拡大の中、十分な活動が出来ない一年であった。

《広報部会》

昨年度に続き、コロナ禍の影響で各事業活動・部会活動が出来ず、会員数も減少した。

広報誌「はつらつ」では、会員の活動、センターの情報、イベント、講習会、作品等を掲載した。今後も「はつらつ」の発行を通して、楽しく生きがいとなる情報を提供する。

《就業開拓部会》

今年度は、新型コロナウイルス感染の影響もあり、十分な活動が出来なかった。

その中で「お仕事相談窓口」を開催した事で、相談者から貴重な意見を聞く事が出来た。

《事業部会》

今年度はコロナ禍により、計画していた事業は全て中止となった。

次年度は、「感染防止」「安全な活動」「安心して参加していただける活動」を基本として、今までの事業をコロナ禍で実施可能な形に変更し開催する。

《ふれあい福祉部会》

今年度もコロナ禍で各種事業が中止になったが、そんな中、令和3年11月および令和4年3月に健康管理を目的として、「太極拳教室」を少人数であったが開催出来た。

次年度は、全員参加の事業を工夫して開催したいと考える。

7. 独自事業活動報告

《リサイクル自転車・さをり織り・シルバー朝市》

各事業で新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、前年度より実績が減少した。

《なでしこの会》

新型コロナウイルス感染の影響により、なでしこ100円サロンも含め十分な活動が出来なかった。

《なたね栽培事業》

今年度の菜種殻販売は、祭事を中止した団体が相次いだ事もあり、1団体30束のみと激減した。ただ、収穫した種を搾油して食用菜種油としてビン詰め販売し、50本が好評のうちに完売した。